

科目名	教育原理	科目ナンバリング	KC1E2C01		
担当者	藤田 泉				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	必修	必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を理解するため、1. 西洋における教育思想と学校の歴史、2. 日本における教育思想と学校の歴史、3. 現代における教育の諸課題と家庭、学校、社会との関係を理解する。保育士養成課程の科目でもあるので、①教育の意義、目的と子ども家庭福祉等との関わり、②教育保育の思想と歴史的変遷と基礎的な理論、③教育の制度、④教育実践の様々な取り組み、⑤生涯学習社会における教育の現状と課題、を理解することを目標とする。			
授業の概要	教育学の諸概念、教育の本質及び目標、教育の成立要素と相互関係、家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開、現代社会の教育課題の歴史的理解、家庭や子どもや学校、学習に関わる教育思想、代表的な教育家の教育思想を学ぶ。事前学修を重視し適宜VTRを利用し小集団での話し合いを通して考えを深める			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス	シラバスと『教育の理念と歴史』まえがきを読む	本科目の目的と履修方法を理解
	2	西洋の前近代の教育思想と教育機関を学ぶ	『教育の理念と歴史』第1章を読む	前近代の教育思想と教育機関をおおかに理解
	3	西洋の近代への過渡期(17・18世紀)の教育思想を学ぶ	『教育の理念と原歴史』第2章を読む	コメニウス、ロック、ルソーの教育思想を整理
	4	西洋の近代公教育の形成の歴史とそれを支えた教育思想を学ぶ	『教育の理念と歴史』第3章を読む	英米仏独の近代公教育制度の形成史とその思想を整理
	5	西洋の近代教授法の成立史とそれを支えた教育思想を学ぶ	『教育の理念と歴史』第4章を読む	ペスタロッチ、ヘルバルト、ヘルバルト派の理論を整理
	6	西洋の新教育運動の生起と展開について学ぶ(その1)	『教育の理念と歴史』第5章第1節を読む	新教育の歴史とその源流となった近代教育思想を整理
	7	西洋の新教育運動の生起と展開について学ぶ(その2)	『教育の理念と歴史』第5章第2・3節を読む	ヨーロッパとアメリカにおける新教育運動を整理
	8	日本の前近代の教育について学ぶ	『教育の理念と歴史』第6章を読む	日本の前近代の教育の歴史と近世の子育てと学校を整理

	9	日本の明治期における近代学校制度と授業の成立について学ぶ	『教育の理念と歴史』第7章を読む	明治期における近代学校制度成立史を整理
	10	日本の大正期における新教育運動について学ぶ	『教育の理念と歴史』第8章を読む	大正期における新教育運動について整理
	11	日本の昭和期における国家主義教育と戦後の教育改革について学ぶ	『教育の理念と歴史』第9章を読む	昭和敗戦までの教育とその反省としての教育改革を整理
	12	教育における学校と家庭の役割の変化について学ぶ	『教育の理念と歴史』第11章を読む	現代社会における学校と家庭の役割の変化を整理
	13	グローバル化と持続可能な社会のための教育について学ぶ	『教育の理念と歴史』第12章を読む	日本の教育制度と教育経営について整理
	14	教育の理念と歴史を学ぶ意義を考える	『教育の理念と歴史』第13章を読む	教育の理念と歴史を学ぶ意義を整理
	15	第14回までの学修内容について意見交換とまとめをし(30分)、学修内容の理解についての筆記試験を受ける(60分)	第1～14回の学修内容の復習をする	全回分の学びについて整理する

使用教科書	令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン／幼稚園教育要領／保所保育指新／幼
	教育の理念と歴史(一藝社)
参考書・参考資料等	適宜配布資料を利用する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	70%	理解度※受験条件:5分の4以上出席
	平常点	30%	事前事後学修、授業への積極的参加

科目名	保育原理			科目ナンバリング	KC1E2C02
担当者	藤田 泉				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	1年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修	必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	保育の基本的概念は何か、また、保育の理念にはどのようなものがあり、保育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの保育の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する			
授業の概要	生涯にわたる教育の基礎段階である乳・幼児期の保育について理解する 1. 保育の意義及び目的を理解する 2. 保育に関する法令及び制度を理解する 3. 保育所保育指針における保育の基本を理解する 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する 5. 保育の現状と課題を理解する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	この授業の学び方を学び、生涯にわたる教育の基礎段階としての幼児教育（以下、「保育」）とは何かを理解する	シラバスと教科書『保育原理』のp.2～p.3を読む	授業の学び方を確認し、保育の理念を整理する
	2	保育とは何かを学ぶ	『保育原理』第1章を読む	保育の理念と保育の社会的責任を整理する
	3	幼稚園について学ぶ	『保育原理』第4章を読む	幼稚園教育の目的、内容、方法を整理する
	4	保育所について学ぶ	『保育原理』第3章を読む	保育所保育の目的、内容、方法を整理する
	5	幼保連携型認定こども園について学ぶ	『保育原理』第5章を読む	幼保連携型認定こども園の目的、内容、方法を整理する
	6	子どもと保育に関する法令と制度を学ぶ	『保育原理』第2章を読む	子ども家庭福祉と保育の関係法令について整理する
	7	保育の方法について学ぶ	『保育原理』第6章を読む	環境を通して行う保育について整理
	8	保育の計画と評価について学ぶ	『保育原理』第7章を読む	保育の計画と評価について整理

	9	子どもの理解に基づく保育について学ぶ	『保育原理』第8章を読む	子どもの発達の理解に基づく保育の実践について整理
	10	地域社会で行う子育て支援について学ぶ	『保育原理』第9章を読む	子どもと子育てに優しい社会について整理
	11	障がい児を受け入れる保育について学ぶ	『保育原理』第10章を読む	障がい児を受け入れる保育について整理
	12	欧米の教育・保育思想を知る	『保育原理』第11章4を読む	欧米の教育・保育思想を整理する
	13	日本の保育の歴史を知る	『保育原理』第11章1～3を読む	日本の保育の思想と歴史について整理する
	14	日本の保育の現状と課題を知る	『保育原理』第12章を読む	日本の保育の現状と課題について整理する
	15	これまでの学びについて意見交換とまとめをし(30分)第1回～14回の学修内容の理解についての筆記試験を受ける	第1～14回の学修内容の復習をする	全回分の学びの内容を整理する

使用教科書	令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン／幼稚園教育要領／保育所保育指新／改訂 保育原理(萌文書林),
	保育の学び スタートブック(第3版)(萌文書林)
参考書・参考資料等	適宜、配布資料を利用する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	70%	理解度※受験条件:5分の4以上出席
	平常点	30%	事前事後学修、授業への積極的参加

科目名	発達心理学			科目ナンバリング	KC1E2C03
担当者	竹下 健太				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	1年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	選択必修		選択必修	ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	子ども達の心と体の成長や学びに影響する遺伝と環境の関わり合いや発達の段階に合わせた各領域の支援ができるようになる。さまざまな学びに関する理論をもとに子ども達を理解し、子ども達自らやる気をだしたり、仲間を作ったりするサポートができるようになる			
授業の概要	命の始まりから終わりまで、さまざまな面から学修。それによって人は、死ぬまで成長し続けることができること、自分で自分を変えることができること、他人を変えることはできないが、変わろうとしている人のお手伝いができることを学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	人が一生発達し続ける様子を概観し発達心理学の必要性を学修	教科書を読んで疑問点をまとめておく	一生発達し続ける存在として自分の人生を考察
	2	遺伝と環境がお互いに影響を与え合うことについて学修	自分の個性がどのように作られたか教科書を基に考える	遺伝と環境に主体的に関わり自己を形成する方法を考察
	3	乳幼児期の愛着形成の理論とその意義について学修	自分の愛着の型を教科書を読んで予想しておく	自分の愛着をより安定したものにする方法を考察
	4	乳幼児期から児童期にかけての遊びの発達とその発達に於ける意義(運動、言語、認知、社会性等)を学修	自分が子どものころにした遊びについてまとめておく	発達の意義から自分と他の学生の遊びを考察
	5	自我同一性形成の理論と自己概念の発達について学修	自分のアイデンティティの達成度を予想しておく	自分の自己概念の発達を振り返り理解を深める
	6	外発的動機と内発的動機の関係について学修し、幼児、児童の主体的学習を支えるような働きかけを学修	自分がやる気が出るのはどんなときかまとめておく	自分のやる気をより内発的なものにする方法を考察
	7	自己主張と自己抑制の発達が社会性の発達に与える影響について学修	自分の自己主張と自己抑制の事例をまとめておく	自己主張と自己抑制がバランスをとる方法を考察
	8	人格形成における遺伝と環境の相互作用について学修	自分の性格で変えたいところをまとめておく	自分の性格を変える方法について考察

	9	外界を適応的に捉えるために必要な遺伝と環境の相互作用について学修	主観と客観がずれ た知覚体験を思い 出す	ヒトの知覚系の可 塑性と臨界期に ついて考察
	10	ことばの発達を中心に様々な発達領域の関連を学修	これまでの内容を 一通り復習してお く	各発達領域の関 連を自分なりにま とめて考察
	11	知的能力における多様な個性とその発達を学修し、幼児、児童の個性に合わせた学習支援及び評価について学修	自分の情報処理 の特性についてま とめておく	知能の多様性を 理解し特性の価 値を認める
	12	個人的発達を基に、どのように社会性が発達するか学修し、幼児、児童の集団づくりの支援ができるようになる	自分の対人関係 の悩みについてま とめておく	自分の悩みに自 分なりに答えを出 す
	13	道徳がいかに学ばれるかについて様々な学習理論を学修	自分の道徳心が どのような起源を もつか考察	道徳の発達につ いての諸学説に ついて考察
	14	感情の生物学的基盤と社会的に構成された要素について学修	自分がどんな時ど んな感情となるか 自己観察	自己の感情制御 の方法を考察
	15	発達における諸問題とその基本的対処方法を学修	これまでの内容を 総復習しておく	発達の問題にお ける様々な領域 の関わりを考察

使用教科書	図で分かる発達心理学(福村出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小レポート・発言	80%	意見の深まり・積極的な参加・理解
	期末レポート	20%	課題について調査、論旨一貫性、自分の考え

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	KC1E2C04		
担当者	竹下 健太				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	こども学科	開設学年	4年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	選択必修		選択必修	ABCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	子どもの学びと成長に影響を与える子どもの心と体、家庭や園とそれらの関わり合いを理解する。さらに学習に関する有名な複数の理論を基に子どもを評価し、それぞれに合わせた指導ができるようになる。またその指導により子どもをやる気にさせ勉強面だけでなく運動面や人間関係面において児童自ら向上させようとするような教師を目指す			
授業の概要	発達心理学をベースに、より応用的実践的な学びや発達支援、そして子ども達自ら頑張ろうという気持ちにさせる方法を学修する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教育心理学の歴史を概観しこれから学ぶ知識を整理するための枠組みを作る	自分の過去を振り返り教育における疑問点をまとめる	幼児教育の現場における教育心理学の必要性を考察
	2	行動主義の実験が教育現場でどのように応用いられているか学修	発達心理学における行動主義について復習しておく	行動主義的の手法で自分の問題行動を変えてみる
	3	認知論的研究が、教育現場でどのように用いられているか学修	発達心理学における認知主義について復習しておく	認知論の観点から自分の学修方法を見直す
	4	コンピュータの情報処理をモデルとした人間の情報処理の理解について学修	発達心理学における記憶の実験について復習	コンピュータの情報処理と人間の情報処理について考察
	5	心理学において個人差(性格)がどのように研究されてきたか学修	自他を観察し個人内差と個人間差についてまとめる	自分の個性が教師として生徒評価にどう影響するか考察
	6	心理学において個人差(知能・学力)がどのように研究されてきたか学修	知能とは何を計るものか自分なりにまとめる	知能の多様性とそれに合わせた関わりについて考察
	7	外発的動機と内発的動機の理論を教育現場でどう活用し、学生の主体的学びにつなげるかを学修	発達心理学における動機の実験を復習しておく	教師として生徒の内発的動機を高める関わりを考察
	8	様々な教授法と学習法を生徒の個性に合わせて選択する方法を学修	自分がどんな教授法をされると解りやすいかまとめる	自分と違う個性の生徒に教育する際の教授法を練習

	9	児童期から青年期の心身の発達を包括的に概観し教育が発達に与える影響の大きさを理解する	発達の可塑性に影響を与える要因について事前学修	自分に影響を与えた出来事について考察
	10	ヒトの乳幼児期における特殊性とそれを考慮した関わりについて学修	発達心理学における愛着理論について復習	自分の愛着スタイルを安定させる方法を考える
	11	ヒトの児童期における概念操作の発達段階について学修(ピアジェの認知発達論)	小学校での学びと中学校での学びの違いをまとめる	異なる発達段階の生徒にどのように教えるか考察
	12	青年期を中心として様々な時期の発達課題の関わりを学修	自分の青年期の悩みについてまとめておく	生徒の発達課題の達成を支援する方法を考察
	13	教師の個性と児童の個性の相互作用についてと、それが、どのように学習評価に影響を与えるか学修	心理テスト等で自己理解を深めておく	自分の教え方や評価の癖とその影響を考察
	14	不登校やいじめ、非行などの不適應について学修し、幼児、児童のより良い集団づくりの支援の方法を学ぶ	学校不適應に関するニュースをチェックする	学校不適應の生徒にどのように対応するか考察
	15	様々な発達障害とその対応について学修	発達障害に関する本を一冊以上読んでおく	発達障害の生徒にどのように対応するか考察

使用教科書	教育心理学エッセンシャルズ(ナカニシヤ出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小レポート・態度発言	80%	意見の深まり・積極的な参加
	期末レポート	20%	課題についての調査、自分の考え

科目名	保育内容総論			科目ナンバリング	KC1E3C05
担当者	亀井 裕子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	1年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
		必修	必修		BCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	保育とは何かについて概要を学ぶとともに、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に基づいた保育内容の捉え方を理解する。 遊びや生活を通して学ぶということを事例から考えることができる。			
授業の概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を核として乳幼児期の発達の特徴や幼児理解を踏まえた保育の展開、育児支援の方法など、保育内容について総合的に学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	保育とは何かについて考える	シラバスを読む	保育について学んだことをまとめる
	2	保育の始まり、幼児教育の歴史について調べる	保育歴について知らべる	学びをまとめる
	3	幼稚園教育要領を踏まえ、幼稚園の一日を知る	幼稚園の一日を調べる	幼稚園の一日をまとめる
	4	幼稚園教育の基本及び全体構造を知る	幼児教育の基本について調べる	幼稚園教育の基本をまとめる
	5	遊びや生活を通して学ぶことを考える	遊びとは何かについて調べる	遊びや生活についてまとめる
	6	領域「健康」「人間関係」に関する事例から学ぶ	5領域について調べる	事例からの学びをまとめる
	7	領域「環境」「言葉」「表現」に関する事例から学ぶ	5領域について調べる	事例からの学びをまとめる
	8	子どもの安全及び健康支援について学ぶ	子どもの安全の課題を調べる	事例からの学びをまとめる

	9	家庭・学校・地域との連携を踏まえた保育について調べる	連携事例を調べる	連携で大切なことをまとめる
	10	子育て支援と保育内容について学ぶ	子育て支援について調べる	学びのまとめをする
	11	保育指導案を立案する 模擬保育をする	保育指導案について調べる	計画を仕上げる
	12	保育実践を学ぶ 保育の振り返りを通して保育の改善を知る 絵本の読み聞かせ・機器の有効活用を考える	幼稚園の計画を調べる	事例から分かったことをまとめる
	13	保育の実践事例から学ぶ	幼児教育におけるエピソードを調べる	事例から分かったことをまとめる
	14	幼稚園教育の評価のあり方についてまとめる	評価について調べる	事例から分かったことをまとめる
	15	幼児教育のあるべき姿についてまとめる	これまでの資料をまとめておく	学びのまとめをする

使用教科書	幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（最新版）（チャイルド社）
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	意欲 態度
	課題(レポート)	10%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方
	試験	60%	理解度 自分の考え

科目名	社会的養護 I			科目ナンバリング	KC1E3E06
担当者	出川 聖尚子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	2年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	日本における社会的養護のしくみについて理解できる。現代社会の現状と要保護問題の関係について理解できる。要保護児童の置かれている状況と日本の社会的養護の課題について理解できる。			
授業の概要	子どもの養育が困難な場合に、社会がその保護者に代わって子どもを育てることを社会的養護という。本講義では、まず、その社会的養護の歴史、現在の児童養護の理念、基本的原理について学ぶ。次に、現在の児童相談所を中心とした児童養護の仕組みについて知る。続いて、実際の家庭的養護、施設養護の状況について理解を深め、最後に施設で暮らしていた子どもたちの現状や思いを学び、今後の社会的養護のあり方について考えていく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション	教科書の目次を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	2	現代の子ども・子育て家庭の現状	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	3	現代の子育て家庭の抱える問題(児童虐待を中心に)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	4	現代の子育て家庭の抱える問題(DVを中心に)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	5	日本における社会的養護のしくみ(児童相談所の役割を中心に)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	6	家庭的養護の理念としくみ	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	7	家庭的養護の現状と課題	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	8	社会的養護にかかわる専門職	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む

	9	施設養護の現状と課題(乳児院)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	10	施設養護の現状と課題(児童養護施設)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	11	施設養護の現状と課題(児童自立支援施設)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	12	施設養護の現状と課題(児童心理治療施設)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	13	施設養護の現状と課題(知的・身体的障害児施設)	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	14	社会的養護における子どもの権利擁護	教科書の該当箇所を読んでおく	講義中に出された課題に取り組む
	15	まとめ	今まで学んできたことを復習しておく	学んだことを復習する

使用教科書	シードブック 三訂 子どもの社会的養護(建帛社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末レポート	50%	授業を踏まえた内容と考察
	授業内課題	40%	授業内容の理解と考察
	授業への参加度	10%	出席や授業態度

科目名	保育者論			科目ナンバリング	KC1E3E08
担当者	亀井 裕子				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	1年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
			必修		BCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	専門職としての保育者のあり方について学ぶ。 ・保育の現状と保育者の役割について知る。 ・保育者の専門性とは何かについて理解する。			
授業の概要	社会情勢の変化や法改正に伴い、保育と幼児教育の公共的使命が明確になってきている。多様なニーズに対応し、専門性や役割、倫理観など専門職としての保育のあり方について学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	意義・目的 保育の意義や目的について知る	シラバスを読む	意義や目的についてまとめる
	2	使命と公共性 保育職の使命と公共性について学ぶ	保育者の使命について調べる	学びをまとめる
	3	専門性 保育者の専門性について学ぶ	保育者の専門性とは何かを調べる	専門性についてまとめる
	4	子どもと保育者 保育における課題と保育者のあり方について	保育の課題を調べる	保育の課題をまとめる
	5	保育士の仕事と役割 児童福祉施設の役割と保育士の仕事について知る	児童福祉施設について調べる	保育士の役割をまとめる
	6	資質能力① 幼児理解と援助について学ぶ	幼児理解について調べる	幼児理解についてまとめる
	7	資質能力② 環境構成とかかわり	環境構成の課題について調べる	幼児理解についてまとめる
	8	保育者の協働① 職場の環境づくりについて考える	幼稚園教育要領を読む	環境構成についてまとめる

	9	保育者の協働② 事例研究をする	保育者間の協同 について事例を探 す	事例から学んだこ とをまとめる
	10	子育て支援と保育者の役割① 子育て支援活動の種類について学ぶ	子育て支援につい て調べる	学びのまとめをす る
	11	子育て支援と保育者の役割② 子育て相談への対応	幼稚園教育要領 を読む	相談のあり方につ いてまとめる
	12	権利と支援 子どもや保育者を守る権利と支援について学ぶ	子どもの権利を調 べる	分かったことをま とめる
	13	保育者の身分 保育者の身分や服務、保育倫理について考える	保育倫理について 調べる	分かったことをま とめる
	14	課題 現代社会の変化と保育者の課題について考える	保育の課題を調 べる	学びのまとめをす る
	15	まとめ 保育者の役割を中心にまとめる	これまでの資料に 目を通す	学びのまとめをす る

使用教科書	幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（最新版）（チャイルド社）
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	20%	意欲 態度
	課題(レポート)	20%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方
	試験	60%	理解度 自分の考え

科目名	こどもの保健			科目ナンバリング	KC1E3E09
担当者	福岡 みつ代				
担当形態	単独			単位数	2単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	1年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	乳幼児期の心身の発育・発達特性や健康状態とその把握の方法について理解する			
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図ることを目的とする。特に発育発達が目覚ましい乳幼児期の健康状態を学ぶ。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション (保育における子どもの保健) ・こどもの保健の学修内容について	シラバスを熟読する	自分の長所を確認し、学修のまとめをする
	2	1、子どもの心身の健康と保健の意義 (1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	テキストを熟読する	健康な子どもを考え、学修のまとめをする
	3	(2)健康の概念と健康指標	子どもの健康について考える	学修のまとめをする
	4	(3)現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 DVD(0歳児)視聴	ICTの問題を考える	学修(ICTのルール)のまとめをする
	5	(4)地域における保健活動と子ども虐待防止	虐待について考える	児童虐待についてまとめる
	6	2、子どもの身体的発育・発達と保健 (1)身体発育と保健 DVD(1～2歳児)視聴	テキストを熟読する	学修(身体発育)のまとめをする
	7	運動機能の発達と保健 DVD(3～5歳児)視聴	テキストを熟読する	学修(身体発育)のまとめをする
	8	(2)生理機能	テキストを熟読する	学修(身体発育)のまとめをする

	9	3、子どもの心身の健康状態とその把握 (1)健康状態の観察 レポート連絡	テキストを熟読する	学修のまとめをする
	10	(2)心身の不調等の早期発見	テキストを熟読する	学修のまとめをする
	11	(3)発育・発達の把握と健康診断	テキストを熟読する	学修のまとめをする
	12	(4)保護者との情報共有 レポート提出締め切り	テキストを熟読する	学修(保護者との情報共有)のまとめをする
	13	4、子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1)主な疾病の特徴	テキストを熟読する	学修のまとめをする
	14	(2)子どもの疾病の予防と適切な対応	テキストを熟読する	学修(疾病の対応)のまとめをする
	15	まとめ ・これまでの講義の内容を総括する	これまでの学修内容を振り返る	これまでの学修内容の要点をまとめる

使用教科書	第7巻 子どもの健康と安全(全国社会福祉協議会)
参考書・参考資料等	適宜プリント配布

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	受講態度、課題へのとりくみ
	課題 / レポート	10%	内容の深さと自分の考え
	期末テスト	70%	筆記試験
	毎時間の振り返り	10%	毎時間の振り返り表の提出状況、内容の充実

科目名	こどもと言葉			科目ナンバリング	KC1E1E56
担当者	楳山 範夫				
担当形態	単独			単位数	1単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	2年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			
備考					

授業のテーマ及び到達目標	領域「言葉」の内容を踏まえ、その指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付けるとともに、幼児期の言葉の獲得過程・発達に応じた保育教材の研究と実践ができる。			
授業の概要	言葉のもつ意義や機能、言葉に対する感覚を豊かにする実践、言葉を育て、想像する楽しさを広げる環境や児童文化財について、幼児の発達過程、具体的場面や幼児の姿を通して考え、理解を深めていく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	領域「言葉」のねらいと内容 人間にとっての言葉について考え、領域「言葉」のねらいや内容について理解する。	領域「言葉」のねらいと内容について調べる。	領域「言葉」のねらいと内容を整理する。
	2	子どもの言葉の発達 子どもの成長段階と言葉の発達段階について理解し、どう働きかけるかについて話し合う。	身近な幼児の成長や言動について調べる。	言葉の発達に応じた働きかけ方について整理する。
	3	言葉に対する感覚を豊かにする 言葉の面白さや楽しさ、美しさや豊かさ等について考え、どう働きかけるかについて話し合う。	面白い、美しいと思う言葉を収集する。	言語感覚を豊かにする働きかけ方について整理する。
	4	言葉を育てる環境・保育者の言葉 生活の中の言葉、話し言葉と書き言葉について考え、どう働きかけるかについて話し合う。	言葉と環境の関係について考える。	自分の言葉を豊かにする実践について整理する。
	5	伝え合いを通して言葉を育てる 言葉を伝え合うことの楽しさと難しさや、どう働きかけるかについて話し合う。	伝え合うことを難しいと感じたことを想起する。	伝え合える環境づくりについて整理する。
	6	絵本を通して言葉を育てる 子どもの心と言葉を育てる絵本について考え、絵本の選択、読み聞かせについて考える。	自分の好きな本を読み返し、説明する準備をする。	多くの絵本に触れ、読み聞かせの練習をする。
	7	言葉遊びを通して言葉を育てる いろいろな言葉遊びを種類や内容によって整理し、言葉遊びを体験する。	これまでに体験した言葉遊びを集める。	いろいろな言葉遊びを収集する。
	8	小学校国語教育とのつながり 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校国語教育とのかわりについて考える。	小学校学習指導要領「国語」のねらいや内容を調べる。	言葉を育てる保育者の役割を整理する。

使用教科書	平成29告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社)
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	理解の確かさ・認識の深さ
	課題についての発表	20%	理解の確かさ・独自の考え
	小レポート	20%	認識の深さ・独自の考え

科目名	こどもと健康			科目ナンバリング	KC1E1E57
担当者	石岡　ひろみ				
担当形態	単独			単位数	1単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	2年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	必修			ABCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。			
授業の概要	領域「健康」の学問的な背景や基盤となる考え方を学ぶことを基本とする。幼児の健康に関する専門的な知識・技能などを修得できるよう、主体的・対話的な学びの過程を大切にします。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 領域「健康」とは 幼児の健康について	現代における健康に関する課題を考 えておく	健康な心と体を育 むために必要な 環境を考える
	2	幼児期の諸機能の発達 ・乳幼児の心と体の発達の特徴 ・映像資料やICT等の活用	子どもの気になる 姿を書き留めてお く	乳幼児の発達の 特徴をまとめる
	3	幼児期の生活習慣の形成 ・基本的な生活習慣の形成と意義	現在の子ども達の 生活における課題 を考えておく	どのような生活習 慣の形成が望ま しいかまとめる
	4	安全な生活と病気の予防 ・幼児の安全教育、健康管理に関する理解 ・映像資料やICT等の活用	園庭や公園で危 険に感じたことを 書き留めておく	リスクとハザード の違いと内容をま とめる
	5	乳幼児期の運動発達の特徴 ・運動発達の特徴を理解し説明できる ・映像資料やICT等の活用	子どもの頃の遊び を書き出しておく	発達表を基に運 動発達の特徴を まとめる
	6	幼児期の運動発達の意義 ・幼児期における多様な動きの獲得と意義	子どもにとって心 地よい運動遊びを 考える	多様な動きの獲 得が大切な理由 をまとめる
	7	幼児期の身体活動の在り方 ・日常生活における幼児の動きの経験や配慮 ・幼児期運動指針	運動遊びをする上 での配慮をまとめ ておく	身近な環境の中 で多様な動きを考 える
	8	まとめ ・幼児期の運動発達の意義と重要性について ・映像資料やICT等の活用	多様な動きを引き 出す体験をしてみ る	保育者としてどう 関わられるかまとめ る

使用教科書	演習 保育内容「健康」―基礎的事項の理解と指導法―(株式会社 建帛社),
	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞(株式会社)
参考書・参考資料等	授業中、適宜資料配付

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末テスト	50%	理解度、独自の考え
	課題／発表／振り返り	30%	課題への取り組み方、発表の内容
	平常点(態度)	20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み

科目名	こどもと環境			科目ナンバリング	KC1E1E58
担当者	松岡 和男				
担当形態	単独			単位数	1単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	2年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
		必修			ABCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	領域「環境」の内容を踏まえ、それぞれの環境のもつ魅力について関心を持つ習慣を身に付けさせる。また、子どもが、環境の何に興味を持ち、どこを工夫し、何に気づいているかという環境と発達の関係についても理解しながら、見通しをもって、子どもが自分で気付いていけるように支え、励ますスキルをもつ。			
授業の概要	保育内容「環境」について、様々な事例をもとにそれがもたらす子どもへの影響について深く学ぶ。そして、様々な環境に真摯に向き合い、子どもが自ら学び、自ら気づくよりよい保育につないでいく。また、幼児を取り巻く大人によって引き起こされる「不信感」「恐怖心」「自己肯定感の低下」など、幼児の個や集団活動への影響について触れる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	保育の基本と保育内容「環境」	シラバスをもとに、学習内容の見通しを立てる	学んだことをまとめる
	2	子どもの育ちと領域「環境」	乳幼児の認知的発達についてテキストで確認する	子どもにとって「環境」とは何かをまとめる
	3	身近な自然と子ども(自然環境との出会い)	自然環境の具体例を考え、準備しておく	自然とのかかわりが期待できる保育実践を考える
	4	身近な自然と子ども(動植物との出会い)	動植物との出会いの具体例を考え、準備しておく	動植物との出会いが子どもに与える影響をまとめる
	5	身近なものと子ども	自分自身が乳幼児期に興味をもった対象をまとめておく	学びを通して、自分自身の乳幼児期を振りかえる
	6	身近な数・形・文字(科学する心)と子ども	身近にある標識や文字を写真などで準備する	学修内容をふり返し、まとめる
	7	身近な地域の施設・行事と子ども	乳幼児に関わる施設とその役目について調べる	施設・行事が子どもにもたらす影響についてまとめる
	8	様々な保育の展開から学ぶ定期試験	テキストや参考資料の該当箇所を読んでおく	さらに学ぶことを考え実践につなげる

使用教科書	子どもの育ちを支える 子どもと環境 改訂版（大学図書出版）
参考書・参考資料等	平成29年度告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	課題内容の充実、自分の考え
	授業に対する意欲	10%	授業参加の積極性、出席4/5以上が必要
	毎時の振り返りワーク	40%	内容理解の深さ、自分の考え

科目名	こどもと人間関係			科目ナンバリング	KC1E1E59
担当者	松岡 和男				
担当形態	単独			単位数	1単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	2年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
		必修			ABCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	領域「人間関係」の内容を踏まえ、子どもと大人が共に自己と他者をめぐる具体的な状況の中で、葛藤し、折り合えない日々がありながら、それでも向き合おうとすることを通して、人と共に生きる力を育むことを目指す。			
授業の概要	社会情動的スキルを育むことにより、幼児とかかわる楽しさや意義深さを知り、幼児の発達過程に即した質の高い幼児教育の在り方を探っていく。また、保育者や大人の対応の不適切さが招く「不信感」「恐怖心」「自己肯定感の低下」など、幼児の個や集団活動への影響について触れる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	幼児教育の効果と社会情動的スキルの指導	社会情動的スキルとは何か調べておく	学んだことをまとめる
	2	保育の基本と領域「人間関係」	社会情動的スキルとは何か、また幼児期との関わり	子どもにとって「人間関係」とは何かをまとめる
	3	仲間とのかかわりのなかで育つ	仲間が子どもにもたらす影響について考えておく	仲間とのかかわりが期待できる保育実践を考える
	4	地域の実態と保育	地域が子どもにもたらす影響について考えておく	地域との出会いが子どもに与える影響をまとめる
	5	「折り合う姿」の発達と保育者の援助	幼児期の折り合った体験をまとめておく	学びを通して、自分自身の乳幼児期を振りかえる
	6	「折り合えない」こととていねいに向き合う	幼児期の折り合えなかった体験をまとめておく	学びを通して、自分自身の乳幼児期を振りかえる
	7	支え合える場をつくる	乳幼児に支え合える体験の持つ意味について考える	支え合うことが子どもにもたらす影響についてまとめる
	8	子どもの側に立って考える保育者 定期試験	こども側に立つとはどういうことか考えておく	さらに学ぶことを考え実践につなげる

使用教科書	情動的スキルを育む「保育内容 人間関係(北大路書房)
参考書・参考資料等	平成29年度告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	課題内容の充実、自分の考え
	授業に対する意欲	10%	授業参加の積極性、出席4/5以上が必要
	毎時の振り返りワーク	40%	内容理解の深さ、自分の考え

科目名	基礎美術			科目ナンバリング	KC1E3E11
担当者	石岡　ひろみ				
担当形態	単独			単位数	1単位
対象学科	未来創造学科			開設学年	1年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修	必修		ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	造形表現に必要とされる基礎的な理論や技術を学び、造形能力や感性を高める。子どもたちの発達や造形活動の過程を理解し、具体的な指導ができるようになる			
授業の概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と法令を理解した上で、描く、作る等、様々な造形表現活動を通して楽しさや喜びを体験し、造形の基礎知識や技術を実践的に習得する。さらに見立て遊びや身近な体験あそびも含めた造形表現活動における技術を実践的に身につける			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション ・子どもの心身の発達及び環境と造形表現の意義・ねらい、表現技法、描画素材、用具	シラバスを精読し必要な用具を持参する	半年の流れを確認する
	2	〔スクラッチ、フロッターージュ〕 ・絵本やストーリーテリングから発展応用し、それぞれの技法、実践・指導法を学ぶ	スクラッチとは何か調べておく	フロッターージュの方法について整理しておく
	3	〔スタンピング〕 ・いろいろなスタンプを作り、実践・応用、指導法を学ぶ	スタンプに適する形や大きさを考えてくる	手作りスタンプ以外にどのようなものがあるかまとめる
	4	〔バチック〕 ・はじき絵の技法を知り、実践・応用、指導法を学ぶ	バチックとは何か調べておく	どのようなものに応用できるか考える
	5	〔デカルコマニー、ドリッピング〕 ・見立て遊びの実践・技法の意味と方法を知り、実践・応用、指導法を学ぶ	デカルコマニーとは何か調べておく	どのようなものに応用できるか考える
	6	〔コラージュ〕 ・様々な素材をのり付けし想像を膨らませる ・イメージの世界を楽しむ方法を学ぶ	コラージュに適する素材を探しておく	どのようなものに応用できるか考える
	7	〔紙細工～切り絵、ちぎり絵〕 ・子どもの生活と遊びの中から自ら親しむ方法、応用・実践・指導法を考える	ちぎり絵に適するテーマを考えておく	切り絵の更なる応用を考える
	8	造形表現活動における教材等の活用及び作成と環境構成、その展開のための技術を実践的に身につける	作品作りに必要な素材、用具の準備	これまでの学修を振り返りまとめる

使用教科書	平成29年度告示／幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)
	保育所保育指針(チャイルド本社)
参考書・参考資料等	授業中、適宜資料配付

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末テスト(実技)	40%	習熟度、独自性
	課題／制作／振り返り	40%	課題・制作の取り組み、保育者的な振り返り
	平常点(態度)	20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み